

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## シンガポールに学んだこと

岐阜県健康福祉部地域医療推進課障がい児者医療推進室長 都竹 淳也

初めての海外生活に不安を持ちながら、CLAIR シンガポール事務所に着任したのは 20 年前、1995 年 10 月のことでした。当時、シンガポールは既に貿易・金融の中心地として確固たる地位を占めていましたが、さらなる発展に向けて、新たな戦略が着々と打たれていました。私はそのたゆまない戦略の発想を学びたいと、クレアレポートのテーマを「シンガポールの産業政策」と定め、国際会議「アセアン地方行政フォーラム」の準備などの傍ら、調査研究を行っていました。

当時、シンガポールは「Singapore Unlimited」をテーマにした産業政策を展開していました。狭い国土と乏しい資源を補うために、インドネシアや中国などに工業団地を開発し、国内とセットで多国籍企業の投資を促し、資金環流の拡大も含めた経済発展を目指そうというものでした。観光においても、シンガポールにない美しいビーチリゾートを求めて、インドネシアの島々を開発し、自国の観光資源と位置づけて誘客を図る取り組みを行っていました。国土の限界を軽々と越えるまさしく「Unlimited」な政策です。

私はその発想に衝撃を受けました。日本で勤務していると、県境、市町村境にとらわれた考えをしがちです。しかし、シンガポールのように、外の資源を自らの資源として使い、他国・他地域の強みを自国の強みと組み合わせ、Win-Win の政策をつくるという自由な発想こそ、これからの自治体の取るべき道であると思いま

した。



他県の専門家などを招聘した岐阜県小児在宅医療研究会

以来、この考え方は私の仕事を貫くバックボーンになりました。今から 6 年前、商工労働部時代に取り組んだ県産



シンガポールの和雑貨セレクトショップでの県産品販売

品マーケティングでは、東京や海外にある和雑貨のセレクトショップと連携し、岐阜県内での和雑貨商品発掘のコストを県が負担することにより、県産品を多く扱ってもらう流れをつくり、事実上のアンテナショップにするという事業を始め、今では世界各国にも広がっています。

現在の仕事である障がい児者医療では、先進県の医療機関などを訪問し、そこで活躍する人材とつながりをつくり、政策のアドバイスをもらい、また、講師に招いて人材育成研修などを行ってもらう取り組みを行っています。こうした他の人的資源、強みを活用する手法は、シンガポールに学んだものです。

これからも、岐阜県という自治体に閉じることのない、オープンな考え方で政策に取り組みでいきたいと思いますし、それこそが、若い自分を育てていただいた CLAIR への恩返しになるのではないかと考えています。

### プロフィール

- 所属・役職：岐阜県健康福祉部地域医療推進課障がい児者医療推進室長
- 現在の主な仕事内容：障がい児者医療、小児在宅医療の推進
- CLAIR 時代の所属：  
業務部業務課（1994 年 10 月～1995 年 9 月）  
シンガポール事務所所長補佐（1995 年 10 月～1997 年 9 月）
- 趣味：まちづくり活動「鶏ちゃん合衆国」、クラシック音楽鑑賞など